

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	18-B10 教育の基礎		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	教育と社会	教育と文化	
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	未定	責任部局	教育学部
趣旨	<p>教員免許状の取得を見据えて、教師を目指す者が身に付けておかなければならない基礎的な知識、つまり教育、学校、子ども(児童・生徒・学生)に関する基礎的な知識を修得します。当テーマ「教育の基礎」(モジュール I)では、教育や子どもという理念や歴史、教育社会と制度、児童生徒の心理、等々について学びます。なお、推奨するモジュール II のテーマ、「教育と社会」「教育と文化」では、教育相談・文学・自然科学・芸術・環境等の内容から自身の興味に応じて選択し、各内容について教育現場(学校や地域社会)との関わりから学んでゆきます。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>取得可能な教員免許状は、学部等によって異なります。取得可能な免許状について調べた上で、免許状の取得を希望する学生は受講してください。なお、教育に強い興味・関心のある方も歓迎します。ちなみに、本モジュールだけでは、教師に必要な素養のすべてを得ることはできません。当テーマで得たものを糧に、幅広い教養を身につけていってください。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
教育原理	未定	前近代から現代までの、思想史的・史的・社会的な基本事項を学ぶ。それを踏まえ、教育の理念や、教育の現実について、クリティカルに考察する。	子ども、学校、家庭、若者、先生、近代教育、ほか
教育心理	吉田 ゆり	子どもの発達(障害児の発達を含む)、学習過程とその動機づけ、パーソナリティと適応、教育評価の主要4領域、さらには学級集団の心理、子どもの適応や発達障害、愛着について講義を行う。	発達、学習、パーソナリティ、教育評価、障害、愛着
教育社会・制度論	中川 幸久 中島 ゆり 池田 浩	教育社会・制度の意味を理解するとともに、具体的で身近なテーマをもとに、そのあり方について検討できる。また国際比較や歴史などの視点も加えて、現在の日本の教育社会・制度の特徴について多角的に考察できる。	教育と社会のつながり、取捨選択、国際比較

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	※授業編成の視点				
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的思考力	計画力	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	国際・地域社会への関心	A 人文科学の内容を取り扱う	B 社会科学の内容を取り扱う	C 現代的な話題を取り入れる	D アクティブ・ラーニングの活用	
教育原理																
教育心理	◎			○			○	◎					◎	○	○	
教育社会・制度論	◎				○			◎			○			◎	○	
◎(特に重視)の数	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	0	
○(重視)の数	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	2	

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	18-B11 現代の教養		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	芸術と文化	自然と暮らし	
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	未定	責任部局	教育学部
趣旨	<p>21 世紀のグローバル社会を生きる人々には、たんに自己の専門分野の知識を深めるだけではなく、ひろく人文・社会科学や自然科学に関係する基礎知識や研究方法を身につけ、さらに、芸術を理解・表現できるような、真の意味での教養人であることが要求されます。</p> <p>本モジュールでは、モジュール I の各科目で人文科学・社会科学・自然科学の基礎知識や研究方法、芸術の理解・表現方法を修得したのち、各自の関心に応じて、それぞれの分野でより深い知識や研究態度を身につけることができますように、モジュール II の科目を選択できるようになっています。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	特定の知識や観点到に偏らず、ものごとに対する広範な知識とそれを考察するための多面的な研究態度を身につけ、現代を生きる教養人をめざしてください。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
文化と社会	未定	未定	未定
自然の科学	工藤 哲洋	教養としての天文学を学ぶ。宇宙と自分とのつながりを認識し、自然との関わり力を培う。	宇宙、恒星、地球
芸術の世界	三上 次郎	一般教養として、楽譜の成り立ちや音楽理論の基礎を理解し、音楽へのアプローチ力を高める。	音楽理論、楽典

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	※授業編成の視点				
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的思考力	計画力	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	関心	国際・地域社会への	A	B	C	D
													取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	取り入れる 現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用
文化と社会																
自然の科学	◎	◎		◎		○			○	○			○	○	○	○
芸術の世界	◎			◎				○					○			
◎(特に重視)の数	2	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
○(重視)の数	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	2	1	1	1	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	18-B12 環境問題と環境政策		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	人間活動と環境影響	海洋環境における生命と物質の多様性	
対象学部	医学部・歯学部・工学部		
テーマ責任者	西久保 裕彦	責任部局	環境科学部
趣旨	これからの社会の長期的将来像を考える時、環境問題からの視点が必要不可欠です。本モジュールでは、人類が直面するいくつかの環境問題を理解し、様々な視点や立場からその解決策について探ることのできる素養および思考力を養うことを目的・教育目標とします。		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>巨大な地球ですが、化石燃料の大量消費や化学物質の放出、乱獲や森林破壊など、“持続”という視点から見ると、取り返しのつかない領域に踏み込んでいます。皆さんが今後、社会の一員として数年先(就職や進路)、数十年先(家族のこと、将来の生活)、百年先(子孫の生活、国家の存続)を考えると、環境の視点からの予測も必要不可欠な時代となりました。このモジュールでは、環境問題の中から、地球温暖化と水環境を中心に地域～国際的におよぶ視点と科学的視点において学び、環境政策と法について見識を広めます。</p> <p>本モジュールでは、講義は知識の押しつけ型ではなく、講義レベルを平易にし、学生の皆さんには自ら考える機会、そしてそれを文章にする機会、さらに人に伝える機会を増やそうと考えています。</p> <p>アクティブラーニングを行いますので、宿題、発表や討論に伴う班行動や教室内移動などがあります。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
地球温暖化を考える	河本 和明 高尾 雄二 富塚 明 和達 容子	温室効果のしくみを学び、それに伴う気象および気候の変化を学ぶ。また、関連する国際条約の成立過程や内容について学び、国家間の立場の違いや国際社会への影響について考える。さらに、化石燃料の燃焼に伴い発生する大気汚染やエネルギー問題の現状を学ぶ。これらによって、地球温暖化の防止が技術的かつ国際的に複雑な問題であることを理解し、改善のための手法を提案し、予想される困難を考える。	温室効果, 地球温暖化, エネルギー収支, 化石燃料, 各国の立場
水環境を考える	長江 真樹 仲山 英樹	上水と下水に関連した種々の水処理技術について学ぶ。また、水に関連した種々の環境問題の現状を理解する。また、植物などを使った水質浄化の実例を学ぶとともに、人の生活が水辺の生き物に与える影響についても学ぶ。そして、水を中心に人を含めてさまざまな生き物が多様で密接な関わりを持つことを考える。	上水, 下水, 水処理技術, 水辺の動植物
環境政策を考える	西久保 裕彦 菊地 英弘 松本 健一	地球環境問題などを解決し持続可能な社会を実現するための政策および法の現状を、国内および国際的視点から、事例を交えて学び、問題点などを考える。また、様々な問題解決のアプローチについて、それぞれの立場で考え、表現することを通じて、問題解決能力の素養を養う。	環境法, 環境政策, 持続可能な開発

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	※授業編成の視点				
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的思考力	計画力	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心	国際・地域社会への	A 取り扱う	B 取り扱う	C 取り入れる	D アクティブラーニングの活用
地球温暖化を考える	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	◎			◎	◎	◎
水環境を考える	◎	○		◎			○	◎	○	○	◎			○	◎	◎
環境政策を考える	○	○	○	◎	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	◎	◎	◎	○
◎(特に重視)の数	1	1	0	2	2	0	0	2	0	0	3	0	2	3	2	
○(重視)の数	2	2	2	1	0	2	3	1	3	3	0	1	1	0	1	

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目